



第1回 ECOWAS – 日本・ビジネスフォーラム 2015 in 東京

広告

主催：ECOWAS在京外交団 & ECOWAS委員会
 共催：アフリカ開発銀行アジア代表事務所
 国際連合工業開発機関東京投資・技術移転促進事務所 (UNIDO ITPO Tokyo)
 日本貿易振興機構 (JETRO)
 後援：国際協力銀行 (JBIC) / 国際協力機構 (JICA) / 経済産業省 / 外務省 / ECOWAS投資開発銀行 (EBID) /
 西アフリカ経済通貨連合 (WAEMU) / 国連開発計画 (UNDP)

ECOWAS加盟国(15カ国)
 ベナン、ブルキナファソ、カーボベルデ、コートジボワール、ガンビア、ガーナ、ギニア、ギニアビサウ、リベリア、マリ、ニジェール、ナイジェリア、セネガル、シエラレオネ、トーゴ



西アフリカへの 日本のビジネス投資機会を 一望する

西アフリカ15カ国からなるECOWAS(西アフリカ諸国経済共同体)は、2020年の地域通貨統合に向け“3億人市場”として注目を集める。日本が官民一体でアフリカのインフラ開発に注力するなか、10月28日と29日、ECOWASの政府高官をはじめとする計100名以上のデリゲーションが来日。第1回「ECOWAS – 日本・ビジネスフォーラム 2015」が開催された。主な内容をレポートする。

「ECOWAS – 日本・ビジネスフォーラム 2015」は、ECOWAS在京外交団長兼駐日リベリア大使のヤンゴー・セベリー・テレウオグ氏の「ECOWASは、輸入関税を撤廃し、人や物品の自由な流れを実現します。日本経済の発展に資する経済共同体です。投資対象にしてほしい」という挨拶で幕を明けた。

続いて、ベナン共和国首相のリオネル・ザンスー氏は「ECOWASについては、世界で若い労働人口が一番多いという利点だけでなく、近代化し、非常に急速に第三次産業に向かって産業化が進んでいることも知ってほしい」と説明し、投資を受け入れる環境が整えられていることを強調した。

急がれる金融システムの構築

「銀行&金融」についてはECOWAS投資開発銀行 分析戦略計画部長のマクドナルド・ゴアヌエ氏が講演。ECOWASにはマイクロファイナンスも含めて106の銀行があり、ナイジェ



ECOWAS投資開発銀行
分析戦略計画部長
マクドナルド・ゴアヌエ氏

リアでは5000万人が中間所得層に入るなど非常に大きな経済成長を遂げたことに触れ、「ヨーロッパのようになるつもりはない。単一通貨がうまく機能するように持って行きたい」という決意の表明でしめくくった。

また、アフリカでの事業で150年以上の歴史を誇るスタンダードチャータード銀行 在日総支配人の竹内靖典氏は「クロスボーダー・ネットワークバンキングの観点からソリューションを提供したい」と語った。

陸海空で整備の進むインフラ

「インフラ開発(道路・交通&エネルギー&テレコミュニケーション)」に関

しては、ECOWAS委員会 インフラストラクチャー担当コミッショナーのエブリマ・ンジェ氏が登壇。ECOWASでは、陸路はトランス・ウエストアフリカン・ハイウェイなどの幹線の整備が進み、海路では9つの港が利用できる。空輸ではエアサービス企業をつくり、航空機のメンテナンスやリーシング企業も登場。鉄道もECOWASの全ての加盟国で共有するマスタープランを作成するなど「アジアともつなぐ陸、海、空のインフラ整備を積極的に進めている」と語った。



ECOWAS委員会
インフラストラクチャー担当コミッショナー
エブリマ・ンジェ氏

日本に先端技術を求める農業

「農業」のテーマでは、ECOWAS委員会 農業水資源担当コミッショナーのラポティニ・マルク・アトガ氏が「現在3億人の人口が2050年には6億人になる。市場としての魅力が増す反面、これほど急激に増える人々に食糧を供給し続けなければならない」という警告から話を始めた。その解決策として、

ECOWASの産業の50%を占める農業の近代化、すなわち、農作物の種苗、肥料、農薬の質と量の向上を挙げ、この分野の先進国である日本の民間企業の投資と技術協力の重要性を訴えた。



ECOWAS委員会
農業水資源担当コミッショナー
ラポティニ・マルク・アトガ氏

採掘・加工に投資が必要な鉱物

「鉱物」については、フォーラム冒頭で挨拶も行ったECOWAS委員会 産業民間部門促進担当コミッショナーのカリロ・トラオレ氏が講演した。ECOWASでは、世界の埋蔵量の約4割を占めるボーキサイトや、金、鉄、マンガン、亜鉛、ニッケル、リン酸塩、ダイヤモンド、ウラン、銅など、鉱物資源が豊かな一方、調査や採掘方法、加工や輸送面での技術や設備の遅れを指摘。その分野に関する投資や技術提携の必要性に触れながら「すでに大企業は介入しているが、日本の中小企業にも進出の余地がまだまだあるので、ぜひ来てほしい」と語った。

1922年に進出し、アフリカ54カ国

のうち53カ国で事業を展開している豊田通商のアフリカ極事務局長戦略提携事業部部長の鈴木健司氏は「ECOWASでも、事業創造、人材の育成、良き市民であるべき、という3つのビジョンを中心に、持続的に事業を行ってゆきたい」と語った。



ECOWAS委員会
産業民間部門促進担当コミッショナー
カリロ・トラオレ氏

ECOWASが熱望する日本の投資

ECOWASは豊富な観光資源を持つため、エコツーリズムなど、観光ビジネスの開発への日本からの投資の重要性についても議論された。

力の入った講演やパネルディスカッション、積極的な聴衆からの質疑応答など、8時間以上の間、熱気がとぎれることはなく、ECOWASの加盟国から日本の民間企業へのパートナーとしての期待の大きさが感じられた。

ECOWAS 在京外交団貿易投資経済委員会 兼 駐日ブルキナファソ大使のフランソワ・ウビダ氏らの挨拶で第1回のフォーラムは幕を閉じた。

ECOWAS – 日本・ビジネスフォーラム
2015
スポンサー



西アフリカ諸国経済共同体
ECOWAS
(Economic Community of West African States)
<http://www.ecowas.int/>



問い合わせ先
ECOWAS在京外交団 事務局(ナイジェリア大使館内)
[E-mail] info@nigeriaembassy.jp
[担当] 上席参事官 Patrick Ilmologhome
 セクレタリー 河田綾子
 セクレタリー 相良優子